

## 第2回自殺対策推進協議会における意見に対する対応整理表

意見	対応
自殺対策の推進に関する基本的な考え方	
<p>「自殺を防止するため」に府民の理解を増進するというのは相応しくない。例えば、「自殺の問題を抱えた方を支援するため」など、支援を前面に出していくべき。</p>	<p>御意見を踏まえ下記のとおり修正(p. 3)</p> <p>自殺は、心身の問題のみならず、経済や仕事をめぐる環境、職場や学校での人間関係など様々な社会的な要因等が複雑に関係しており、一部の人のみではなく、誰もが当事者となり得る<b>問題</b>ものであること、また、<b>自殺を防止するためには、</b><del>自殺対策には、</del>悩みを抱えた方を孤立させず、適切な支援を行うことが必要であることが広く府民に認識されるよう、府民の理解促進を図る。</p>
<p>「自殺の問題」に関する府民の理解促進を、「自殺」に関する府民の理解促進に変えることは難しいか。</p> <p>「自殺の問題」とすると、希死念慮のある方は、自分は問題を抱えている人なのだと見られる感覚になると思う。</p>	
学校における体制整備	
<p>鎌倉市の図書館での「辛いときには学校に行かずに図書において」というメッセージは素晴らしく、「不登校解消に向けた取組」との記載は不適切ではないか。</p>	<p>御意見を踏まえ下記のとおり修正(p. 7)</p> <p>家庭や地域、民間企業と連携して学校非公式サイトやSNS等の監視を行うなど、いじめ防止の取組を推進するとともに、学校における相談体制の充実など、不登校<b>解消に向けた取組を支援します。</b>の児童、生徒等の支援に取り組みます。</p>
人材養成	
<p>教員に対する自死遺児支援に関する研修や情報提供を取り組んでいただきたい。実際に教師からひどいことを言われた自死遺児もあり、また、大人への情報提供は進んでいるが、子どものへの情報提供はまだという状況である。</p>	<p>御意見を踏まえ下記施策を追加(p. 8)</p> <p>悩みを抱えた児童、生徒への気づきや支援など、教員の対応能力を向上させるため、スクールカウンセラー等による研修を推進します。</p>
自殺発生の危機対応	
<p>自殺ストップセンターの名称を是非変えてほしい。この名称ゆえに相談したいが相談できないという声もあるので、対応いただきたい。</p>	<p>自殺対策推進計画での表記については変更なし</p>
<p>自死遺族でも、自殺ストップセンターという名称のところに相談に行こうとは思わないと思う。</p>	